てねうつぎノ

花

3

リハ痩

セ

長クテ下方ニ漸

k

= 狹窄

レシテ居

ルガはてねうつぎノ花

ハ豊大デ其下部ガ急ニ

一狹窄

≥/

ひのきばやどりぎノ種子散布ノ奇象

ナイ 脈並ニ支脈上ニ可ナリ毛ガアル然シ其毛ガ同屬中ノたにうつぎ即す Diervilla Japonica DC. ノ様ニ軟クテ白ク テ居ル又はこねうつぎノ葉ニハ通常毛ガ極メテ少ナク殆ンド無イ様ニ見ユルガにしきうつぎノ葉ニハ葉裏ノ中

ロニハ産

シナイガ然シ上ニモ言ッタ通り其花色ガ白

3

リ紫

=

變ズル

ニはこね

世間デ云フはてねらつぎハ前述ノ通リ箱根山

大

六 四 年. īF. 私 うつぎハ「相州箱根山ニ多シ」ナド、書イテハ惡ルイ、 つくじガ温泉岳ニ産セヌト同ジコトデアル 上ニ詳述シタ通り今日吾人ノ稱スルはこねうつざハ決シテ箱根山 カラ矢張同 ロノはこねうつぎョソノ様ナ名デ呼ビ做シタモノデアロウト思フ ハ書物 : 八記事ニ拘泥セズニ實地ニ就テ探究シタカラ上ノ如キ新事實ヲ得タノデア 様ニ變色シテ箱根山ニ多キに しきうつぎヲ世人ガ輕卒ニモ同種ノモノト思ヒテ扨コソ今日謂フトコ コレハ丁度きりしまつくじガ霧島山ニ産セズ又うんぜん ニ産セヌカラ「言海」ナドノ記事 ル書物ニ ハ隨分誤リノアル ノ様

)ひのきばやどりぎノ種子散布ノ奇象

富 太 郎

牧

野

、其中央ニー小種子ヲ藏スルコト恰モ普通ノやどりぎノ果實ニ於ケルガ如ク然リ、而 如ク或ハ疎ニ或ハ密ニ點々トシテ其莖節ニ著キ熟シラ黄色若クハ柑黄色ヲ呈シ所謂漿果ヲナシ のきばやどりぞ(Pseudixus japonicum Hax. 一名 Viscum japonicum Thunb.) ノ果實ハ其小ナル ニ値スベキコト先ニ偶々東京帝室博物館天産部在勤ノ根本莞爾君 シテ本種 = **果實** テ果 ョ 下 テ見出セラレ 內 ノ種子ヲ 恰 Æ 粟 升 多 粒

3

y

放出スル

ノノ狀

ハ顔ル

顧

7)

Ħ

植物學上ノ術語ト

シテ果實ノ種類

= 蒴,

X

根本

君

3

リーひ セ

のきばやどりぎノ寄生セ

上ニ寄生 數多 ナク遺

iv

グノ種

膠著シ又其やどりぎ體上ニ ひのきばやどりぎノ體ョリ上方

ハ 1

旣二

=

位

存

セ 字

見

カヲ要ス

w

7 w

論 ヲ

+ タ 3

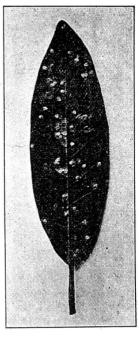
若シ精細ニ之ヲ研究 ルコトアリ而シテ此

セ

٧V 如

難カラズ

はまびは葉ノ裏面 = 7



のきばやとりぎノ種子粘著ノ狀(質大)

果外 リ即

彈

7

其 何

委曲

一今遽カ

明

ラ

× テ

難 其

2

チ

其

果

中

如

--

in

方法

相

生

ジ

以

種

7

1.

モ

機

熟

ス 出

が則

チ其種子ハ突然果實

1

頂巓

ス

Ŀ 破 方ニ 粘 ラ 質 果 w 向 外 ν 11 フ 3 = / テ若干 射出 則 IJ チ テ 自體 直 飛去 ニカナク落下 距離 ピヲ謬著 シ以 テ其附 ヲ 急遽 ラ此 彈飛 近 ス w 如 物體 = 1 ア 其 w ラ 種 = 力 其有 子果體

ズ

シ

ラ 有

ヲ

ルはまびは(くすのき科ノ常緑樹)ノー枝ヲ得 則チ其間必ズ一新事實ヲ發見 ク此柔輭ナル果實ガ其種子ヲシ 其砲彈否其種子ヲ發射シ了セ |セル葉ノ裏面(寫眞圖ヲ見ヨ)ニ向フテ其下方 ス故 向フテ種子 我 植物體 ス テ弾 ラヲ投著 w ル室砲否室虚 ョッ上 = 至 射 ラ 方 也 セ タル IV = 2 3 アヲ見 位セ 4 3 ガ ŀ IV ŀ 之 ル寄主 固 = ナ IV y ヲ 3 3 3 相 リ發 檢 ŀ y Ø 之ヲ ル果實 當 常 ス 枝若 射 IV ナ 豫 拋擲 y = 3 其枝 予 B 力

蓇葖及ビ葶ノ語ハ原ト何ノ 書ヨリ出デシカ

野 富 太 郎

牧

ノ蓇葖ダノ又花莖ノ一種ニ葶ダノト種々六ケ敷文字ガ使用サレ

喜英及と夢ノ語ハ原ト何ノ書ヨリ出デシカ